

大阪中之島美術館 見学会の感想

3月8日火曜日、久しぶりの女性会主催の見学会は、春めいた晴天の中で実施されました。参加者50名余りの盛大な会となりました。

開館記念の超コレクションが全展示室を用いて、6000点を超えるコレクションから代表作品を選び展示されていました。

数ある作品の中でも佐伯祐三の郵便配達夫の迫力ある筆づかいに目を見張るものがありました。

絵画、写真、ポスターをはじめとする作品の中に「懐かしい大阪」を感じました。見慣れたはずの街に「知らない大阪」を発見する機会となると思います。

明治、大正、昭和戦前を再確認し、大阪の源泉となった魅力や活力、そして美意識を掘り起こす一日となりました。



(淀川食品株式会社 取締役副社長 田村 節子)

新入会員ご紹介

2021年4月
～2022年3月



蔵野 裕子
生見栄養薬品(株)
専務取締役



中川 佳英子
(株)大阪宣伝研究所
代表取締役社長



廣末 幸子
(株)大阪鉛錫精錬所
代表取締役社長



山中 千佳
ビーコック魔法瓶工業(株)
代表取締役



佐々木 優子
木花咲 MOKKASAKU
代表



島津 郁代
(株)ブライプライズ
代表取締役



大森 由子
ネオプラスファーマ(株)
代表取締役



大川 陽子
(株)コムラディリー
代表取締役



中村 眞希
(株)ドールアップ
代表取締役社長



堀井 瑞恵
(株)MOT
代表取締役



松田 亜紀
(株)汎建製作所
取締役

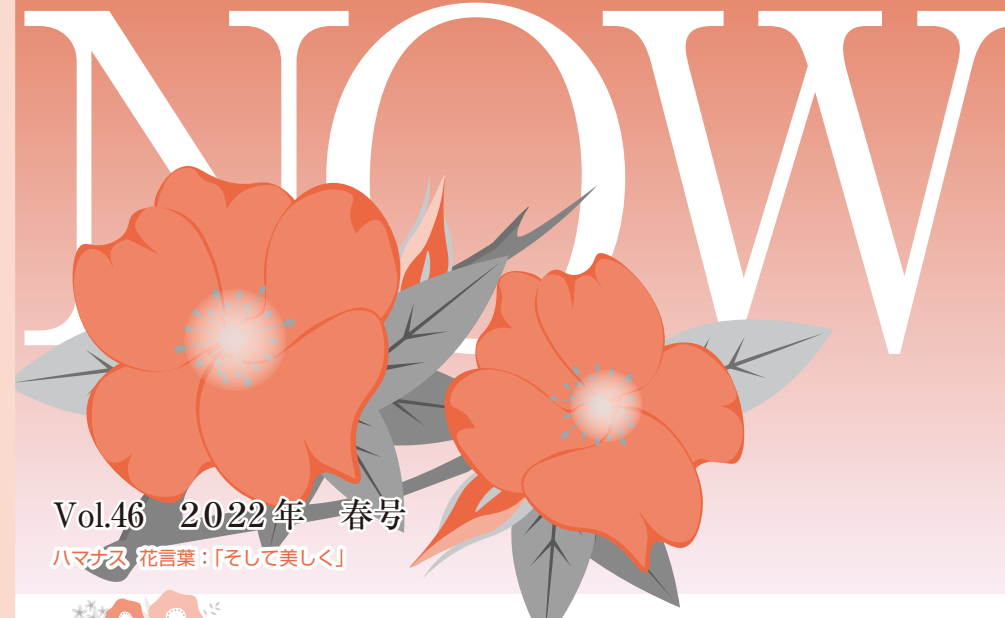


吉住 育子
(一社)Stand By Children
代表理事
(再入会)

編集
後記

2022年NOW 春号をお届け致します。
原稿執筆にご協力いただいた皆様、御礼申し上げます。
広報委員の皆様
2020年6月から2年間、何とか、4回目のNOW 発行に至ることができました。
色々ご協力いただきありがとうございました。

広報委員会



Vol.46 2022年 春号

ハマナス 花言葉:「そして美しく」

2022年度の主な事業予定

6月23日(木)	2022年度通常総会
8月	【大阪府女性会連合会】理事会
9月14日(水)	【関西女性会連合会】姫路大会
10月	経営事例発表会
10月 7日(金) ～9日(日)	【全国女性会連合会】 福島全国大会&エキスカージョン
11月	【大阪府女性会連合会】研修・交流会
2023年	
1月	新年互礼会
2月	経営事例発表会
3月	【関西女性会連合会】理事会&会長会議

大商女性会会員向け勉強会

2021年11月22日 大阪商工会議所「白鳳の間」

秋の深まりを感じる11月22日、大阪商工会議所6階の白鳳の間に、女性会会員約30名が勉強会のために参集しました。

木花咲MOKKASAKU代表 佐々木優子さまを講師に招き「香りで自分を癒す～明日の元気と健康維持の笑顔のお手伝い～」と題し、嗅覚と香りのメカニズム、自分を癒すヒントについてお話いただきました。良い香りがかぐとりリラックスして、気分が良くなるだけではなく、そこには脳と直結して身体が反応するメカニズムがあり、心を司る脳へ良い香りを届けると言う事は、自身の五感を喜ばせる行為となります。

日本においてはリラクゼーションとして用いられるアロマセラピーですが、海外においては医療として取り扱われ、薬局での扱いとなっているそうです。世界中でその効果が認められているアロマですが、香りの好みは人それぞれであり、それを良い香りと感じるか、そうでないかにより、脳への働きかけ方に違いが生じると考えられているとのことです。

個人の感性を尊重してこそその効果という事であり、素直に自分の感性に従う事こそが自身の身体の為となり、現代の個性の尊重にも繋がるのだと感じました。



エッセンシャルオイルの選び方や正しい扱い方についても詳しくご説明頂き、最後に佐々木先生が抽出されたハーブウォーターを全員に頂戴し、厳選されたブレンドのアロマオイルの中から、自分好みのものを選びそれぞれオリジナルのアロマオイル作る、貴重な体験をさせていただきました。

アロマセラピーに関する正しい知識を持ち、日々の調整に役立てて、心豊かに健康な毎日送るヒントをいただきました。

(株式会社ヤマガタ 代表取締役社長 城戸 礼子)

大阪府商工会議所女性会連合会 研修交流会

2021年11月29日 帝国ホテル大阪「孔雀西の間」

美術館構想から40年 大阪中之島美術館、開館へ

この度行われた府女連の研修交流会はコロナ感染者数が落ち着いていることもあり、大阪府下14カ所から133名のご参加で盛大に開催することができました。冒頭、廣瀬会長は「コロナ禍においてはなかなかできなかった、直接お会いしてお話しができ、お食事ができるということは懇親を深めるためには大変意義があることです。この度の題材である美術館は行って鑑賞し感動することで人生が豊かになり、経営者にとっても新しいインスピレーションを受けることができる場所です」とご挨拶されました。

大阪中之島美術館は2022年2月2日にオープニングを迎えられます。館長である菅谷富夫様は地上5階建て建物の構造の説明から総数6150点の素晴らしい貴重なコレクション、そしてその後は新しい美術館像のお話をされました。「1983年に美術館構想が発表されてから今まで、この長い準備期間に3回基本計画を作成しました。新しい美術館像のために大阪中之島美術館は3つの新しいことを目指しています。

①新しい機能（集めた資料を整理して公開していくアーカイブを作る）②新しい視点（東京一点からだけの視点を脱却し大阪からの視点が切り開く新たなアートシーンの発信）③新しい活動スタイル（外部活力の活用、新たな可能性の追求）です。それによってアートとデザインのプラットフォームを実現しようとしています。市民と一緒に作る美術館といった具合に地元の皆さんに支持され日常的に訪れてもらえないと美術館は持続可能ではありません」とおっしゃったのが印象的でした。

今年2月2日のオープニングでは貴重なコレクションから代表作品を選び、全展示室を用いて一堂に公開されます。会長のおっしゃる通り、美術館に足を運ばれることで何か新しいインスピレーションが生まれるかもしれません。皆さま、美術館へ気軽に行ってみませんか。



（共栄印刷株式会社 代表取締役 柳 有香）

大商女性会 映画「天外者（てんがらもん）」上映会

2021年12月3日 大阪商工会議所「国際会議ホール」

この映画は、商工会議所初代会頭五代友厚を主人公にした、幕末から明治期についての話です。

題名の「天外者」とは、“凄いやつ”“すさまじい才能の持ち主”などの意味の鹿児島弁であり、その名の通り五代友厚は、次々に自身の目的を達成していきます。

五代の残した「地位か名誉か金か、いや、大切なのは目的だ」と言う言葉がありますが、まさに地位や名誉やお金のためではなく、日本をよりよくすると言う目的のために自分の生涯を捧げて、一生を終えた方だと思いました。

その想いが、市民に浸透するまでには時間がかかり、変化を嫌う日本の島国気質が、考え方の変化に対応するまでに五代が、どれほどの熱意と努力を持って訴え続けたかと思うと、熱い信念がないと成し遂げることは不可能だと感じました。

現在の商売を営むという当たり前のことが出来るようになるまでには、幕末に海外へ飛び出し西洋文化を学んで、広めてくれた、この時代の勇士達がいたからだと改めて感謝したいです。

そして、今後は、日本が発展途上国の手本となるように独自の文化を共有し、発展の手助けが出来るようになれば、世界全体が成長するでしょう。

コロナ禍で、新たな世界観で物事を考えなければならなくなった今こそ、是非見ていただきたい作品であると思いました。



（株式会社トウヨウ貿易 代表取締役 岸澤 可乃）

経営事例発表会

2022年2月9日 大阪商工会議所「末広の間」

『社員みな笑顔=私の幸せ』

信和電気工業株式会社は1997年に先代のお父様が設立され、鉄道の信号関係全部、踏切遮断器、ポイント切り替え、ATS設置、障害物検知装置、リレー室などの配線工事を行う会社です。

創業時から甥にあたる従兄弟二人を雇用され、当然、後継社長はその従兄弟たちと思っていた千鶴さんにお父様から突然社長の要請がありました。一人荒波に出た千鶴さんの初仕事は銀行借入れの保証人欄にサインをすることで、当時、年間売り上げを超える億単位の借入れであったが、結論は先でしかわからないと躊躇はされなかったとのこと。暗中模索の中、経営者には軸になるものが必要と考え、JALやKDDIを見事に再生した京セラの稲盛氏の著書を読み、主催の経営者塾にも入塾。そこで参加された方々が過酷な中で奮闘されている姿に刺激を受け、紹介されたセミナーにも土日にもかかわらず、遠くまで出かけ猛勉強されたとのこと。大きな悩みは社内外で様々な問題を起こす従兄弟二人の存在で、熟慮の末、取引先にも事情を話し従兄弟を退職させることを決意。今迄、従兄弟からの指示待ち族だった社員たちは発奮し仕事をやり遂げ、得意先からは感謝の言葉まで頂き、それが社員たちの自信につながったようです。社長就任から9期目となり、当初抱いた一番の目的の「会社を存続させ社員の生活を守り、笑顔の人生を送ってもらいたい」に変わりはなく、その為に就業規則の改定と職場環境の改善を実行。アドバイザーからは借入れを売り上げの半分にし、自己資本比率をアップするようにと進言され、経営者塾では経常利益率10%目指せと学び邁進。やがて、3期目には現金が借入れを上回り無借金となり自己資本比率25%から70%に、経常利益は最高30%近くまで上昇。社員の年収も増やし喜びの声が上がり、切望すれば願った通りになると強く痛感されました。大切なことは会社として損となっても社員の得になるように動く、そして、勇気が出ないときにはこの会社がもし自分の子供が働く会社であったら良い会社でよかったと思ってもらえたらと想像されたそうです。

凛とした小柄な姿からはとても想像できない仕事をこなし、立派に家業を伸ばしておられる姿に感銘を受けました。

（バレンシア 代表 内田 陽子）



『二つのファミリービジネスを生きて』



共栄印刷株式会社
代表取締役
柳 有香 様

柳有香様が代表取締役を務める共栄印刷株式会社は、柳様の曾祖父磯田健三氏が創業し、昨年100周年を迎えました。曾祖父、祖父、父、母と代表取締役を務めた磯田家のファミリービジネスです。

平成29年9月、共栄印刷株式会社の代表取締役に就任し、ファミリービジネス5代目のバトンを受け取った柳様ですが、実は、結婚を機に、もう一つのファミリービジネスに関わったご経験をお持ちでした。

柳様と磯田家のファミリービジネスの最初の接点は、平成18年、お父様が49歳の若さでお亡くなりになった直後でした。当時の勤務先を退職し、取締役としての入社でしたが、生前のお父様が柳様に、会社を継がせる、継いで欲しいと言葉にしたことはなく、この時、柳様に、ファミリービジネスのバトンを受けとる意識はなかったそうです。このため、平成23年に結婚した柳様は、共栄印刷株式会社を退社し、一旦、磯田家のファミリービジネスとの関わりは途切れれます。

結婚後、専業主婦となった柳様でしたが、パートナーの家族も会社を営んでおり、二つ目のファミリービジネスとの関わりが始まりました。家庭で、家族として夫、義父、義母と関わり見聞きする日々を、柳様は、裏方に徹して、ファミリービジネスを支える生活だったと振り返ります。

お父様の後を継いだお母様から、そろそろと請われ、パートナーの家族の了承も得て、柳様は共栄印刷株式会社に代表取締役として戻ってきました。「ビジネスをつないでいく意思と、その意思を次の代に言葉にして伝えていく大切さ」。ファミリービジネスの表と裏を見たご経験を振り返った言葉に感銘を受けました。

（アーカス総合法律事務所 弁護士 末永 京子）